

2013. 4. 16 (火)

水俣病認定義務付け 溝口訴訟 15:00～ Fさん訴訟 16:00～ 判決 (改訂版)

水俣病の最高裁判決・集会にご参加を!

水俣病は、公式確認から 57 年を経た現在、約 7 万人の未認定被害者に二度目の「政治決着」が行なわれていますが、その「特別措置法による救済」からも、切り捨てられる人が出ています。

そのような状況下、最高裁判所は、＜関西訴訟で勝訴しながら熊本県認定審査会では棄却されたFさんの処分取消と認定を求める訴訟＞、＜水俣で検診未了のまま死亡した母・チエさん棄却処分の取消と認定を求める溝口訴訟＞、2 件の水俣病認定義務付け訴訟の口頭弁論を 3 月 15 日に開きました。そして 1 ヶ月後の 4 月 16 日に判決期日を指定しました。最高裁判所は、こんな忙しい日程で、どんな結論を出そうというのでしょうか。この期日設定は、特措法受付締切りや 10 月の水銀条約・海づくり大会で「水俣病の幕引き」を狙う国・熊本県の意図に沿ったと言わざるを得ません。しかし、最高裁の責務は、国が患者切捨ての道具としてきた認定基準(1977・昭和 52 環境庁策定の「後天性水俣病の判断条件」)について、医学的妥当性・法的正当性の欠落を厳しく断じることこそあるはずです。

Fさん訴訟は一審勝訴を経て控訴審で敗訴しましたが、先般、環境省が医師に「偽証」を要請していた事実が発覚しました。高齢原告は弁論直前に 87 歳で亡くなり、承継されたご家族も高齢です。溝口訴訟は一審敗訴を経て控訴審で勝訴。第一次政治決着で曖昧な解決を迫られたご自身や胎児性の息子さんの無念もこめて、亡母の認定を求めてきた秋生さんは 81 歳です。もはや認定義務付け以外にFさんと溝口さんに報いる道はありません。

認定基準という水俣病最大の焦点に挑んできた二つの訴訟の判決です。最高裁は手続きの拙速を批判する弁論を陳述せぬよう弁護団に命ずるなど権威的な姿勢も露わにしていますが、多くの皆様が傍聴席をぎっしり埋めることをもって、原告を励まし、被告行政と司法への無言の圧力を形成して下さいよう、お願いします。法曹を目指す学生や研究者の方々、原発や環境問題で課題を共有する皆様のご参加も歓迎です。

判決後、報告集会、そして環境省交渉もあります。あわせて皆様のご参加を呼びかけます。

■溝口訴訟・Fさん訴訟 最高裁判決 (第三小法廷)

15:00— 溝口訴訟判決 * 14:10 に整理券交付が締切られ、抽選を経て傍聴券交付・入廷。
14:00までに最高裁南門にお集まり下さい。

16:00— Fさん訴訟判決 * 15:10 に整理券交付が締切られ、抽選を経て傍聴券交付・入廷。

最高裁(東京都千代田区隼町4-2)南門へのアクセス

・永田町駅【地下鉄半蔵門線・有楽町線・南北線】4番出口から青山通りを三宅坂交差点(東)方向へ徒歩約5分、2番出口も同程度
半蔵門駅【同 半蔵門線】1番出口から半蔵門駅前通りを国立劇場(南)方向へ徒歩約10分
・国会議事堂前駅【同 丸ノ内線・千代田線】、赤坂見附駅【丸ノ内線・銀座線】、桜田門駅【有楽町線】からは徒歩約15分

■溝口訴訟・Fさん訴訟 最高裁判決報告集会 霞ヶ関駅【地下鉄丸の内線】B1-b出口直通/最高裁から徒歩30分

18:00 開場 18:30-20:00 弁護士会館10階 1003号室 (入場無料)

水俣からは、一次訴訟原告の坂本しのぶ・渡辺栄一さん、同じく胎児性患者の長井勇さん、行政不服に勝利した緒方正実さん、佐藤英樹団長ほか互助会訴訟原告の皆さんも、判決と集会に上京されます。

■環境省交渉 21:00— 霞ヶ関合同庁舎5号館 環境省 1階 第四・第五共用会議室 (20:30入場)

- * 遅い時間設定ですが、集会後に交渉に臨みます。 霞ヶ関駅【地下鉄丸の内線】B3出口徒歩1分
- * 庁舎内に個々人で入る際は身分証明書(運転免許証等)の提示が必要となります。皆で入る時は不要。
- * 翌17日は、熊本県庁で交渉を行います。(午後3時)

<呼びかけ>

溝口訴訟弁護団 溝口訴訟上告取下げ実行委員会 (代表 弁護士 山口紀洋)

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-16-3-61 吉勝法律事務所 連絡先 090-7816-4974 (鈴村)

F氏認定義務付け訴訟弁護団 (代表 弁護士 田中泰雄)

〒530-0047 大阪市北区西天満1-2-5 大阪JAビル13F 大阪法律センター法律事務所

<協力> 東京・水俣病を告発する会 チッソと国の水俣病責任を問うシンポジウム実行委員会

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル1A

多くの皆様のご賛同にお礼申し上げます。

要 請 水俣病について、筋の通った最高裁判決を

最高裁判所第三小法廷 御中

裁判長 寺田 逸郎 様 裁判官 田原 睦夫 様 裁判官 岡部 喜代子 様
裁判官 大谷 剛彦 様 裁判官 大橋 正春 様 担当調査官 林 俊之 様

水俣病未認定患者Fさんと溝口さんの上告審について訴えます。

チッソ水俣病関西訴訟における 2004 最高裁判決は「チッソのみならず国・熊本県行政にも水俣病発生・拡大の責任があること」「健康被害の基底は中枢神経損傷によること」の 2 点において 2001 大阪高裁判決を確定させ、水俣病の定義を塗り替えました。その判決以降、不知火海沿岸に潜在する未認定患者の申請が 6 万数千人に及びました。被害を申し出ることを躊躇していた住民の背中を判決が押した形です。9 年前の見識に改めて敬意を表します。

今回訴訟の F さんは関西訴訟の勝訴原告です。その最高裁判決と整合しない棄却処分や 2012 大阪高裁判決を放置・追認するなら、最高裁の水俣病観が医学的にも法解釈的にも根底から問われます。また、遺族の秋生さん提訴の溝口訴訟においては、行政が意図的に病院カルテ調査を放棄した故・母チエさんについて、2012 福岡高裁は疫学的条件を重視し詳細な鑑別を行なって水俣病と判示しました。この判決を否定して別な結論があり得るでしょうか。そして、それぞれ高齢の患者や遺族に、これ以上の長期訴訟を強いることは人道上も容認できず、迅速・広範な救済という立法趣旨にも反します。F さんと故・溝口チエさんが医学的にも法的にも水俣病であるとの認定義務付けを、最高裁の責任において速やかに判示されるよう、強く要請する次第です。

昭和 52・1977 水俣病判断条件の症候組み合わせ論と「末梢神経損傷説」に基づく運用が医学的にも誤りであることは明らかです。これが法の目的・趣旨に照らして妥当などという判示が万一あれば、1973 年以来地裁高裁で確定した幾多の水俣病判決をも含め、司法の功績は烏有に帰してしまいます。

関西訴訟や 1980 川本輝夫さん刑事訴訟の公訴棄却におけるように、水俣病における行政の誤謬を正した最高裁の判決・決定は歴史を画します。2004 最高裁判決の意義内容をふまえぬ水俣病政策の誤りを断ち、歴史の審判に堪え得る判決を出されるよう、強く求めます。

以上、貴所に要請するとともに、同時にこれを声明として世に広く伝えます。

(弁論当日の 3 月 15 日に提出した要請に、追加の賛同名も加えて再提出します。)

2013 年 4 月 10 日

* F さんは賛同呼びかけ中の 3 月 3 日、87 歳で亡くなられご家族が訴訟を継承されました。心からご冥福をお祈りします。

相川晴彦 (京葉生きいき会議) アイリーン美緒子スミス (グリーン・アクション) 青木亘 (アジア砒素ネットワーク) 赤上剛 (渡良瀬研究会) 赤坂耕志 (川崎工科高校化学系教員) 秋庭勇人 芥川仁 (写真家) 阿久津陽子 (小金井市民/抵抗者)
浅沼淳子 (遠野市) 阿部茂二 阿部秀寛 (NPO 法人あしたや共働企画) 阿部真琴 阿部幹雄 阿部恵 天野珠路 (大学教員)
荒井康子 (NPO 法人あしたや共働企画) 荒井征子 (チッソ水俣病「知ろつとの会」) 安藤聡彦 (埼玉大学教育学部教員)
安藤能子 (小金井平和ネット) 飯塚範子 (阪南中央病院) 五十嵐久美 五十嵐智子 五十嵐よし子 池川富子 (会社経営)
井澤賢隆 石垣京子 (space まろうど) 石毛理美子 (ケアホーム世話人) 石田雄 (政治学研究者) 石出恭子 (公務員)
石橋義之 (大工) 石橋涼子 (医師) 石牟礼道子 (詩人) 磯辺忠 (国賠ネットワーク) 板井俊介 (弁護士/熊本)
板橋裕志 (小金井市民) 一之瀬敏子 (ケア・マネージャー) 一之瀬正史 (映画カメラマン) 一之瀬碧 (会社員) 市原克枝 (会社員)
一本木康二 (水俣病東海の会事務局/名古屋水俣病を告発する会) 井寺喜香 (子どもと未来を守る小金井会議)
伊藤慎吾 伊藤慎式 (研究職) 伊藤隆子 伊東昇 (ブロック職人) 伊藤繁次郎 井上京子 井上幸明 伊野部京子 (アーティスト)
稲垣聖子 乾喜美子 井上ゆかり (熊本学園大学水俣学研究センター) 井部正之 (ジャーナリスト) 今岡二三子 今田久幸 色川大吉 (東京経済大学名誉教授)
岩間有希 (NPO 法人あしたや共働企画) 浮田千枝子 (教員) 牛島佳代 (福岡大学医学部講師)
内山大造 (荒馬座) 梅谷聖子 (保育士) 浦崎貞子 (助産師) 江下時代 (石垣島・白保・大阪の会)
柄本三代子 (東京国際大学人間社会学部) 大石悦司 (遠野市) 大石直也 (遠野市) 大石マリ子 (遠野市) 大川あけみ 大沢忠夫 (エコネットみなまた・はんのうれん)
大沢つた子 (エコネットみなまた・はんのうれん) 大橋茂 (チッソ水俣病「知ろつとの会」)
大畑豊 (電気代不払いプロジェクト) 岡田暁子 (自営) 岡田キミ (荒馬座) 岡田哲 (会社員)
岡田早苗 (荒馬座) 岡田智夏 (荒馬座) 岡田仁 (荒馬座) 岡田裕康 (建築家) 岡田優希 (荒馬座) 岡田穠 (荒馬座)

岡本達明 (元チッソ水俣工場第一組合委員長) 緒方俊一郎 (緒方医院院長) 緒方正実 (建具職人) 萩野秋恵 (子どもと未来を守る小金井会議) 萩野徹男 (会社員) 萩野哲矢 奥田順平 (自営業) 奥田直美 (自営業) 尾崎寛直 (東京経済大学准教授) 小野喜彦 (日本地雷廃絶キャンペーン) 小原悟 (創史社) 角田龍太郎 片山かおる (小金井市議会議員) 加藤和政 (加藤製茶) 加藤喜代志 (元金沢大学教員) 加藤タケ子 (水俣まっとうほうす) 加藤真弓 (NPO職員) 叶内栄子 (主婦) 金谷多恵子 (荒馬座) 金子サトシ (ドキュメンタリー映画監督) 金子満里 (荒馬座) 金子未来 鎌田慧 (ルポライター) 上川誠二 (荒馬座) 上小沢美帆 (社会福祉法人はぐるまの会職員) 上條順子 上條恵 (会社員) 上村好男 (水俣病互助会) 亀山輝夫 鴨沢久代 (年金生活者) 川内愛弓 (荒馬座) 川島宏知 (俳優/ひとり芝居「天の魚」) 川俣修壽 (ジャーナリスト) 川本隆史 (東京大学教員) 菅孝行 (文筆業) 漢人あきこ (小金井市議会議員/緑の党 Greens Japan 運営委員長) 菊地洋子 (福島県浪江町民) 北彰 (中央大学法学部教員) 北野章子 北村小夜 (障害児を普通学校へ・全国連絡会世話人) 北村知巳 衣川隆志 (阪南中央病院労働組合) 木村孝司 (経産省前テントひろば) 木村雄喜 (団体職員) 工藤定義 (自由業) 工藤達也 (自営業) 久保田好生 (季刊「水俣支援」編集部) 熊倉克久 栗原彬 (政治社会学者) 栗林佐知 (ライター) 黒田真理子 (市民自治こがねい) 桑原史成 (フォト・ジャーナリスト) 小泉信三 小泉美英子 高明伸 香雪我部幸江 小坂勝弥 (京都・水俣病を告発する会) 小柴一良 (日本写真家協会) 小島敬子 (フリー編集者) 小関和弘 (和光大学教員) 小西妙子 (あみかけ一座) 小林繁 (明治大学文学部教員) 小林茂 (ドキュメンタリー映画監督) 小林直毅 (法政大学社会学部教授) 小林巳土里 (主婦) 小林洋一郎 (新島在住・半農半漁) 小堀鈴子 (飲食業) 近藤波美 (子ども全国 Net 事務局) 最首哲 (和光大学名誉教授) 斉藤健至 (たんぽぽ舎) 斉藤伸也 斉藤俊子 (たんぽぽ舎) 斉藤知久 齋藤恒 (木戸病院医師) 斉藤美智子 (幼児教育者) 坂井悦子 (市民自治こがねい) 坂井悦子 (街かどディハウス「茶の間」) 酒井珠枝 坂本龍虹 (水俣病被害市民の会/水俣の暮らしを守る・みんなの会) 佐久間忠夫 佐久間伸子 (介護支援専門員) 佐々木和子 (無職) 佐々木比奈子 (主婦) 佐々木ふさ子 (看護師/薬膳生活アドバイザー) 佐々木美代子 (会社員) 佐藤明日香 佐藤和夫 (秋田県退職教員協議会鹿角支部事務局) 佐藤和雄 (こがねいコンパス編集長) 佐藤紀代 佐藤恵子 佐藤悟 佐藤スエミ (水俣病被害者互助会) 佐藤保 (救援連絡センター) 佐藤英樹 (水俣病被害者互助会第二世代訴訟原告団長) 佐藤ひとみ 佐藤誠昭 佐藤義昭 澤田慎一郎 (NGO法人) 塩田武史 (写真家) 四方哲 (ロシナンテ社) 志田圭将 渋谷和子 嶋崎英治 (三鷹市議会議員) 嶋田暁人 (人形遣い) 嶋田悦司 清水晃 (校正業) 清水唯史 (演劇グループ CUATRO GATOS) 清水早子 (下地島空港の軍事利用に反対する会) 清水基 (演劇グループ CUATRO GATOS) 清水洋司 (無職) 志村鈴代 (社会福祉法人かれん) 下田守 (下関市立大学教員) 庄野明博 白木喜一郎 (ひとり芝居「天の魚」スタッフ) 白山映子 (東京大学大学院生) 陣内直行 (映像プロデューサー) 結秀実 (近畿大学教員) 菅井益郎 (國學院大学) 菅原玲子 杉田尋子 (管理栄養士) 鈴木紀雄 (埼玉高校教員) 鈴木一誌 (ブックデザイナー) 須藤富子 (主婦) 砂田エミ子 (水俣はたろの家) 清野隆史 (漢方みづ) 清和清治 関いづみ (荒馬座) 関憲次 (荒馬座) 関千枝子 (荒馬座) 関礼子 (立教大学) 関根幸恵 (市民自治こがねい) 相馬克範 成元哲 (中央大学現代社会学部教授) 高岡滋 (医師) 高作彩佳 (荒馬座) 鷹取良典 (チッソと国の水俣病責任を問うシンポジウム実行委員会) 高野秀男 (新潟県平和運動センター) 高橋和恵 高橋正 (公務員) 高橋浩 (東京一般労働組合東京音楽大学分会) 高橋宏幸 (演劇批評家) 高橋昌代 (会社員) 多賀徹生 (寺院住職) 滝口直行 (NPO法人あしたや共働企画) 滝沢厚子 (暮らしを見つめるひととき) 竹内治男 竹田明弘 (港湾労働者) 竹村洋介 (近畿大学講師) 田坂富士男 (憲法を守る芦屋市民の会) 田嶋いづみ (「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク) 田尻種伸 (東京・水俣病を告発する会) 田風雅美 (熊本学園大学水俣学研究センター) 田中稲美 (無職) 田中紀子 (演劇グループ CUATRO GATOS) 田中真弓 (東京・水俣病を告発する会) 田中美和 (主婦) 田中睦 (熊本学園大学水俣学研究センター) 谷園子 谷雅樹 谷洋一 (水俣病被害者互助会事務局) 丹波博紀 (東京大学大学院/最首塾) 趙博 (シンガーソングライター) 辻潤 (漁業) 土本亜理子 (文筆業) 土本基子 (映画同人シネ・アソシエ) 土屋翼 (国賠ネットワーク) 土屋利夫 筒井明子 (日消連関西グループ) 坪井みち (主婦) 寺井カツ子 (パート) 寺岡慎平 寺田みね子 (主婦) 唐仁原久 (多摩市民) 富樫貞夫 (水俣病研究会) 十倉桂 富澤恵理子 (荒馬座) 富澤賢 (荒馬座) 富澤淳一 (荒馬座) 富澤舞 (荒馬座) 中尾恵子 (城星学園中学高等学校教諭) 中川一夫 中島圭子 (水俣を子どもたちに伝えるネットワーク) 中島聡 (東京・水俣病を告発する会) 長島敏治 (荒馬座) 長島美香 (荒馬座) 中西日 (演劇グループ CUATRO GATOS) 中野英幸 (日雇い) 奈賀悟 (元新聞記者) 長井勇 (水俣まっとうほうす/胎児性水俣病患者) 長尾すみ江 (NPO法人あしたや共働企画) 長岡義行 (会社員) 永嶋基宏 (無職) 永野三智 (水俣病センター相思社) 長野れい子 (演劇グループ CUATRO GATOS) 永本賢二 (水俣まっとうほうす/胎児性水俣病患者) 成本秀隆 縄野吉明 西尾久登 (農業) 西岡トミ子 (主婦) 西田修司 (荒馬座) 西田剛 (荒馬座) 西田真弓 (荒馬座) 西田美枝子 (荒馬座) 西田健江 (荒馬座) 西畑節子 (荒馬座) 西畑幹子 (荒馬座) 西畑光穂 (荒馬座) 西山健一郎 (東大阪国際共生ネットワーク) 二村淑子 (会社員) 野沢淳史 (明治大学大学院博士後期課程) 野澤康子 野本均 (特別区職員労働組合連合会執行委員) 萩野直路 (木戸病院) 萩原修子 (熊本学園大学教授) 橋本敦士 橋本俊美 (主婦) 橋本久雄 (小平市議) 長谷川美紀子 (無職) 畑章夫 (スペースふうら) 旗野秀人 (新潟水俣病・安田患者の会事務局) 花崎攝 (演劇デザインギルド) 花田昌宣 (熊本学園大学) 馬場晶子 (世田谷区民) 早川照代 (障害者サービス管理責任者) 原一男 (映画監督/大阪芸術大学教授) 春原憲一郎 (海外産業人材育成協会理事兼日本語教育センター長) 飯田暢子 (医師) 番園寛也 (一橋大学大学院生) 坂東克彦 (弁護士/新潟) 萬野利恵 樋口司朗 (合同会社辻遊舎) 菱田彰 (都高教組退職者会) 平岡臣實 (経産省前テント広場) 平川千宏 平田三佐子 平山泰子 (無職) 藤沢抱一 (弁護士) 藤本敬三 (チッソ水俣病「知

ろっと」の会) 佛原行夫(下地島空港の軍事利用に反対する会) 古谷杉郎(全国労働安全衛生センター連絡会議) 星ひかり(詩人/ふくしまをわすれないネットワーク) 星望守之(東京大学/フランス文学) 細矢菊子 細谷孝(中央大学/環不知火地域再生研究会) 細矢昌武 堀傑(団体役員) 堀井有子(自営業) 本間美恵 牧野喜好(チッソ水俣病事件から命の尊さを学ぶ会) 牧野紘子(機織り講師) 正上常雄(非常勤講師) 町田忠昭(中国人強制連行を考える会) 町田よし子 松浦希 松尾恵虹(元三井三池CO単独訴訟原告団) 松崎忠男(水俣病患者連盟) 松里美恵 松下頼子(翻訳) 松島玲子(NPO職員) 松田健児(創価大学) 丸尾雅徳(チッソ水俣病「知ろっとの会」) 丸山公男(精神科医) 丸山定巳(熊本学園大学教授) 丸山徳次(龍谷大学文学部教授) 水由章(映像プロデューサー) 三浦かおり 三浦智恵子(荒馬座) 三浦直美(荒馬座) 三浦洋(阪南中央病院理事長/F氏訴訟医師団) 三浦義明(荒馬座) 三浦律子 三砂ちづる 三谷仁美(熊本大学法学部講師) 水戸洋子 宮河伸行(荒馬座) 宮崎則子 宮澤和子(明治大学職員) 宮下直紀(演劇グループCUATRO GATOS) 宮本成美(写真家) 村井勇(新潟市) 森久美子(阪南中央病院) 森光(中央大学) 守屋友江(阪南大学教員) 森下美歩(世界ヒバクシャ展) 森永都子(詩人/画家) 森本宮仁子(チッソ水俣病「知ろっと」の会/あみかけ一座・座長) 森山千恵子(農業者) 森山俊信(労働者) 森山眞理子(漢方薬局) 八重樫大貴 八木香(NPO職員) 八木健彦 保田千世(ノーハブサ会員/脱原発フェミニスト集合!) 安間節子(化学物質問題市民研究会) 安間武(化学物質問題市民研究会) 家中茂(鳥取大学地域学部教員) 柳田耕一(環境カウンセラー) 矢作正(「技術と社会」資料館) 山内美穂(げんぱつチョキョーキーズ/子どもと未来を守る小金井会議) 山口勝洋(無職) 山口優子 山崎昌子(日本消費者連盟関西グループ) 山下英俊(一橋大学大学院経済学研究科准教授) 山下善寛(水俣病被害市民の会) 山田純一 山田真(小児科医) 山之内萩子(無職) 山本重郎(阪南中央病院) 山本俊明(ジャーナリスト) 山本信子(東京・水俣病を告発する会) 山本勇祐(たんぽぽ舎) 山本律雄(旭丘高校教員) 山本礼治(たんぽぽ舎) 由井京子 余湖太一 余湖祐子 吉田和彦(東京外語大学大学院博士課程) 吉田千佳子(カネミ油症被害者支援センター) 若木京子 若槻登美雄(日本美術家連盟洋画部会員) 若林苗子(市民自治こがねい) わしお由紀太(行政書士) 和田幸子(NPO法人あしたや共働企画) 渡部尚美 渡辺マリ

4月7日 最終集約 410名(公表匿名4名含む)

提出代表 細谷 孝

4・10 最高裁要請行動報告

奥田 みのり (季刊「水俣支援」65号掲載予定稿)

「水俣病について筋の通った最高裁判決を」を求める要請文が4月10日、支援者によって最高裁に提出された。提出したのは、チッソと国の水俣病責任を問うシンポジウム実行委員会と東京・水俣病を告発する会。細谷孝氏(中央大学講師)を代表に、支援者と報道関係者10名が、要請文の受け渡しに立ち会った。対応したのは、最高裁の訴訟上席書記官・若梅順一氏と訴訟首席書記官補佐・岩崎俊弥氏。

要請文は、第三章法廷所属の5人の裁判官と、担当調査官宛て。過去の最高裁の判決が、水俣病における行政の過ちを正してきたことにふれ、16日に判決がくだされる溝口訴訟、Fさん訴訟についても、歴史の審判に堪え得る判決を期待するという内容。作家の石牟礼道子さんら410人が要請文に賛同者として名を連ねた。

要請文のほか、Fさん訴訟大阪高裁判決で、環境省から「国に都合のよい証言」をしてほしいと要請された佐藤猛医師の証言映像をおさめた関西テレビのニュース番組の記録と、水俣病裁判に関する地方新聞の記事のコピーも手渡した。

今回の要請文は、331人分の賛同署名とともに要請文を提出した3月15日の行動に続くもので、その後の賛同者を追加したもの。また、前回は東門で要請文を手渡したただだったが、今回は30分時間を用意してもらい、会議室での受け渡しだった。

前回渡した要請文については、「担当書記官に渡している」(若梅氏)とのことだった。

溝口訴訟弁護団の鎌田氏が、Fさん訴訟大阪高裁で、環境省が佐藤医師に虚偽意見を要請したことにふれ、「法廷愚弄、法廷侮辱ではないか」と述べた。「環境省が(佐藤医師の)証人申請をしていたのに、ひっこめるというのはおかしいのでは」(細谷氏)「溝口訴訟では、中村政明証言について、意見書をつくったのは環境省の職員だと中村医師がいつている」(鎌田氏)と訴えた。

次に白木氏が、溝口訴訟・山口弁護士の弁論内容について、一部、読み上げないようにと最高裁から指示があったことについて、「それは命令なのか、要請なのか」と質問すると、要請だと若梅氏。要請はよくあることなのかという問いには、「わかりません」とこたえた。「けずられた部分は、Fさんと溝口さんの弁論をなぜ同日にやるのか問うている部分だった」(細谷)「言論統制ではないか」(白木)という発言に対して若梅氏は、「一般的には裁判長のほうで、弁論ではこの部分について述べてもらいたいという主旨で…」とこたえた。

最後に鷹取氏が、65,000人(特措法申請者)の思いを受け止めた判決を訴えた。若梅氏はうなづきながら、終始メモを取り続けた。

面談を終えて最高裁の東門を出ると、壁に貼ってあるポスターが目についた。そこには、「人とむきあう裁判所」と書かれていた。

最高裁判所は、人とむきあう裁判所なのだろうか。筆者にはわからない。溝口さんやFさんとむきあった判決であってほしいと祈るばかりだ。